

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子

イラスト/清水直子



第43回

食物アレルギー

修学旅行や宿泊行事にも課題

✿ 宿泊先との打ち合わせが必要に

学校で食物アレルギーの子が直面する課題は、給食だけではありませぬ。修学旅行や宿泊行事に行く際も、出される食事の心配や、誤食が起きたときの医療機関との連携などについて打ち合わせが必要になります。丁寧に対応してくればよいのですが、そうでない場合、保護者は大変な苦勞を強いられます。最近も、「こま」アレルギーのお子さんを修学旅行に送り出すお母さんから、宿泊先に問い合わせても、加工食品で表示義務のある乳、卵など7品目についてはわかるものの、「こま」については食事で使うのかわからず、困り果てたとの相談がありました。

こうした相談は「母の会」にたくさん寄せられ、対応するなかでわかってきたこともあります。

最も多いのは、学校が「対応できないだろう」と勝手に判断してしまい、お願いして宿泊先に問い合わせてもらったら、対応できることがわかったというケースです。また旅行会社を通して宿泊先に依頼し、うまくいったケースもあります。

それでも、「一人だけ特別扱いできない」と参加しないよう求められるケースは絶えません。なかには、すでに食べられるようになったにもかかわらず、校長から「事故が起きたら困るので修学旅行は遠慮を」と言われ、念のため緊急時に備えた自己注射薬「エピペン」の携帯を申し出ると、「食事は除去食」



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

「迷惑をかけるので宿泊先に謝るよ」と母親が言われるのを聞いた小学生が、「自分を守ってくれるのはいつもお母さん、学校は何もしてくれない」と怒り、本人が参加を拒否したケースもありました。

✿ もう少し親身になって柔軟な対応を

いまや、どのクラスにも食物アレルギーの子がいるのが普通になりました。それでもそうした子どもたちは「特別」で、排除されても当然なのでしょうか？ 子どもにとっては一生に一度の思い出です。学校側にはもう少し親身になって、旅先の食事の原材料を確認し、救急隊や医療機関との連携を密にするなどの柔軟な対応をお願いしたいです。